

1 基本情報					
施設名又はグループ名		指定管理者名及び団体概要			
神代植物公園		(指定管理者名) 公益財団法人 東京都公園協会			
指定期間		(団体の概要) 都市緑化の推進、公園や水辺を通じた安らぎとゆとりの提供を目的として設立され、公益目的事業（指定管理者事業を含む）及び収益事業を行う。			
H28.4.1 ～ R8.3.31 (10年間)					
2 施設名		3 収支（単位：千円）			
神代植物公園		項目	金額	公園別支出額	
		収入計	576,131	神代植物公園：571,581	
		内 指定管理料	576,131		
		内 利用料金	0		
		支出計	571,581		
収支差	4,550				
4 管理運営の概要					
<p>【江戸園芸文化の保存・継承】 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止措置のための休園やイベント開催制限、協賛団体の辞退などにより、講習会や展示会は中止せざるを得ませんでした。感染状況が一段落した8月には、特別企画展「多様な日本の植物が世界の園芸文化に及ぼした影響と役割」を開催し、日本の植物や日本の江戸園芸文化が世界の園芸に及ぼした影響を明らかにし、江戸園芸文化の魅力を発信しました。また、協賛団体の展示辞退により開催中止になった展示スペースを有効活用し、「一目で分かる江戸園芸文化」と題して、江戸園芸文化を解説するパネル展を開催しました。</p> <p>【植物多様性の保全】 絶滅危惧植物の生育状況の調査を進めるとともに、無菌培養による域外保全、全国の植物園等との情報交換を積極的に行い、全国12箇所の出張展示を実現させるなど、東京の植物多様性保全の普及啓発に貢献しました。</p> <p>【魅力向上と情報発信】 休園期間が続きましたが、HPやSNS等の情報発信を強化することで当園のファン獲得に繋げ、開園時には多くの利用者が来園しました。（SNS発信昨年比 131% フォロワー増加数 135%）また、神代植物公園及び深大寺周辺を回遊する謎解きプログラムや、オンラインでのバラ園バーチャル体験など、「新しい生活様式」に合わせたコンテンツを提供することで、コロナ禍においても楽しめる神代植物公園の魅力を高めました。</p>					
5 管理状況（維持管理）					
<p>■神代植物公園で見いだされたツバキ「神代都鳥」が3月に日本ツバキ協会に新品種として登録されました。「神代」の冠がついた、「神代曙」、「クイーン・オブ・神代」、「神代都鳥」等の神代植物公園固有品種の後継育成に、引き続き取り組んでまいります。</p> <p>■バラグアイオニバスの人工授粉による種子の採取、多種多様な古典菊の栽培・展示など職員の栽培技術を活かし、植物の展示を充実させました。</p> <p>■夏に強い花苗を用いた花壇作りやキキョウの新品種10種類を新たにはぎ園に植栽するなど、園内の彩りを向上しました。</p> <p>■見本園再生プロジェクトの一環として、「うめ園」の梅の樹高を抑え、より観覧しやすい姿に導く剪定を行うとともに、バラの補植や原種ペゴニア、熱帯スイレン、アメリカキバスなどの新規植物を導入し、植物園としての魅力向上を図りました。</p> <p>■障がい者団体へのヒアリングを実施し、ニーズを把握しトイレ誘導の円滑化のためのサインを設置することで、利便性を向上しました。</p> <p>■北多摩南部建設事務所所管事業区域に生育していたカワラノギクの種子の授受及び保管、放射5号線整備におけるキンラン未熟苗等の受入れ、育苗、植え戻しの実施、野川河床整備工事箇所に生育していたホラシノブ等貴重種保護育成を行い、建設局事業に大きく貢献することができました。</p> <p>■栽培技術が確立されていない絶滅危惧植物のミクラジマトウヒレン、シマキンレイカ、オニバス、ミズアオイの保護・増殖に成功し、環境資源の保全に貢献することができました。</p> <p>■園内のトイレに自動感知型水栓を導入し、旧式の蛇口栓を一掃した他、使用頻度が高いトイレに、オートソープディスペンサーを設置し、感染防止対策の徹底とともに、利便性の向上を図りました。</p>					
6 利用者アンケート結果					
実施方法：					
施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
神代植物公園	4.5	4.5	4.5	4.7	4.5
7 入園者数の状況（単位：人）					
施設名	当該年度	分析			
神代植物公園	310,890	桜花期・春バラ等コロナ対策による臨時休園の長期化により約31万人（前年度比約▲51%）に留まりましたが、SNS等で高頻度の情報発信や夜間利用拡大等、公園PRを図ったことで、開園時には前年比121%、約54千人増となりました。			
合計	310,890				



神代植物公園

指定管理者：公益財団法人東京都公園協会

コロナ禍で進めた、安全、安心、快適な公園施設管理

◆都立施設 DX 推進と、感染リスク低減【事業計画 No3-③-16 評価区分 32】

都立施設の DX 推進に則り、正門・深大寺門の窓口券売機、自動券売機を刷新し、全ての機器でクレジット・電子マネー・QRコード決済への対応が可能にしました。スタッフへの研修等入念に準備を進めたことで、導入後もトラブルなく適正な徴収事務を行うことができました。利用率も、入園料全体の「3%」の想定を大幅に上回る「16.8%」となり、非接触型サービスの拡充と利便性の向上を図ることができました。



QRコード決済

◆非接触型水栓の導入と清掃強化で感染防止を徹底

【事業計画 No3-④-23 評価区分 2】

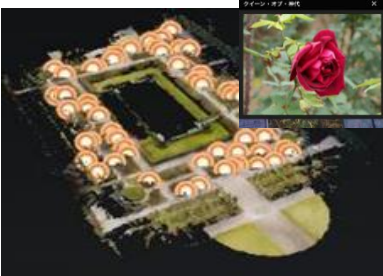
園内のトイレに自動感知型水栓を導入、旧式の蛇口栓を一掃した他、使用頻度が高いトイレに、オートソープディスペンサーを設置し、感染防止対策の徹底とともに、利便性の向上を図りました。また、清掃業務を直営作業に切り替えたことで効率的に細やかな清掃を実施。利用満足度が昨年度比 0.2 ポイント向上し、4.5 の高水準となりました。



自動感知型水栓

オンラインコンテンツにより、アットホームで楽しめる神代植物公園を発信

◆3D 画像によるバーチャル体験でばら園の魅力を広くPR【事業計画 No3-②-17 ③-27 評価区分 21】



植物コミュニティーアプリ「GreenSnap」と連携して3Dバーチャル技術を使い、世界中からオンラインで神代植物公園ばら園を体験できる取り組みを実施、17,400 人が訪問しました。マウス操作でばら園を自由に移動ができ、解説が付いた 51 種類のバラを鑑賞できるように。コロナ禍において外出が難しい中、オンライン上でいつでも、どこでも、季節を問わずばら園を楽しむことができ、また、セルフガイドにも活用可能なツールとすることができました。

感染防止にも配慮した新企画は若者からファミリー層に大好評

◆地元と協働した謎解きゲーム「瓶の中の不秘儀な世界」で広く伝えた地域の魅力

【事業計画 No3-③-11 4-自-10 評価区分 23】

神代植物公園及び深大寺周辺を参加者が個々に回遊する謎解きプログラムを実施。コロナ禍でも楽しめる社会的なニーズにもマッチした取組となり、延べ 6,000 人以上が参加しました。(株)タカラッシュと深大寺そば組合、深大寺の協力を得て、クオリティの高いサービスを提供することができ、初めて当地域を訪れるお客様も多く、当地域の地域活性にも寄与できました。



◆カップルから家族連れまで、満点の星空の下での映画鑑賞

【事業計画 No3-③-50 4-自-10 評価区分 23】

「天体観測イベント」に加え「夜」の植物公園の魅力を伝える新たな取組として、人工光が届かない広い芝生広を活かした野外上映会「星空映画」を実施。非日常的な空間を創出し、検温・アルコール消毒・グループ毎に 2m 以上のソーシャルディスタンス等、感染防止対策を充分にとることで、ご家族でも安心して参加できるようにし、新規の若年層の利用促進に繋げました。



野外上映会「星空映画」

地域活性化に向けた広域的な施設の連携構築

◆「むさしのガーデン紀行」のコア施設として、武蔵野エリア 20 施設をリードし連携を強化

【事業計画 No3-③-67 評価区分 20】

当園がコア施設となり、調布市をはじめ、武蔵野地域をフィールドにした各拠点施設と広域的に地域活性を目指す「むさしのガーデン紀行」が国土交通省が推進するガーデンツーリズム事業に認定されました。令和3年度にはマイクロツーリズムムーブメントに対応するスタンプラリーの実施を予定しており、今後、広域的な地域活性を目指して周辺施設とのコラボレーションなど新たな事業展開を図ってきます。



「むさしのガーデン紀行」マップ

日本を代表する植物園にふさわしい成果で存在をアピール

◆当園ならではの切り口の特別企画展で江戸園芸文化のすばらしさを発信

【事業計画 No3-②-4 評価区分 20】

平成29～31年度に実施した特別企画展をとりまとめ再構成した特別企画展、「多様な日本の植物が世界の園芸文化に及ぼした影響と役割」を開催しました。日本の特異な植物相の成り立ちや日本の園芸文化の特徴、日本の野生植物や園芸植物が世界の園芸文化に及ぼした影響を明らかにし、江戸の園芸文化のすばらしさを発信しました。図録等も作成し、より知識を深めたい来園者のニーズに応えるとともに、後世に伝えることができました。



◆栽培事例のない種の保存法対象種の保護育成・増殖に成功

【事業計画 No3-②-7・30 評価区分 6】

絶滅危惧植物のミクラジマトウヒレン、シマキンレイカ、オニバス、ミズアオイを保護育成し、増殖に成功しました。いずれも栽培技術が確立されていない種で、これまで培った栽培技術を駆使して増殖に成功し、東京都の植物多様性保全に貢献することができました。また、水元公園では近年ミズアオイの生育が確認されていないことから、遺伝子的にも貴重な個体となりました。



ミクラジマトウヒレン



シマキンレイカ



ミズアオイ



オニバス

◆神代植物園で見いだされた「神代都鳥」の新品種登録

【事業計画 No3-③-56 評価区分 12】

神代植物園で見いだされたツバキ「神代都鳥」を日本ツバキ協会に新品種として申請し、2021年3月に登録されました。神代都鳥は、後世へと受け継いでいくのにふさわしい名木として、日本ツバキ協会認定の「優秀古木椿」にも認定されています。「神代」の冠がついた、「神代曙」、「クイーン・オブ・神代」、「神代都鳥」等、神代植物園発祥の品種をPRすることで、日本を代表する植物園としての魅力を発信していきます。



ツバキ「神代都鳥」

◆充実した環境学習プログラムで新規利用を獲得

【事業計画 No3-②-9 評価区分 21】

コロナ禍により近隣で環境学習の場を探していた学校等の要望に応えオリジナルの環境学習プログラムを実施。調布市立柏野小学校には「学校周辺で見られる野生植物」、東京都立大学プレミアムカレッジには「多摩・島しょ地域の自然」を題材にし、多様性センターの実地を活かしたプログラムが好評を博し、次年度以降も利用拡大につながる結果となりました。



環境学習プログラム